

(Ⅳ-18) 快適環境整備計画のための調査に関する研究

○山梨大学 学 佐藤博英 正 北村真一 地域開発研究所 正 兼子和彦

1. はじめに
戦後の日本は、経済成長により国民の価値観は多様化し、生活環境に対する要求も「便利で公害のない環境の確保」から「安らぎや潤いのある快適な環境」へと変貌しつつある。従来環境の快適性が向上しなかった原因として、市民の快適環境の必要性の認識不足や快適環境構成要素の抽出方法、また実現の施策がないなどに問題があったと考えられる。また昭和59年度より策定されたアメニティ・タウン計画もまだ計画方法論は十分確立されているとはいえない。

本論文では、第一回指定を受けた13都市の①計画策定手順を比較し、現状調査やアンケート調査、各種施策などの計画の中での位置づけや計画目標の策定プロセスを整理し、②その中で基本的な計画情報として重要な位置を占めている市民意識調査について鹿児島県川内市をケーススタディとして、その解析手法について考察することを目的としている。

2. 各都市の計画策定手順の比較・分類
各都市の策定手順を比較した結果、一般的な計画策定の方法として図-1のようなフローチャートが描けた。これは、環境庁マニュアルとはほぼ同じである。立案は既存の計画を把握し、関連する既存の諸施策を「快適環境づくり」という視点から体系化し新たな計画を策定するのだが、施策は5つの類型に分類でき(表-1)、事業に基づいて各都市は3つに分類できる(表-2)。すなわち(A)都市施設整備と市民生活行動のルールづくりを重点としたもの、(B)自然環境保全を重視したもの、(C)歴史的環境を重視したものである。各都市の施策は地域性、歴史性等を生かして環境構成要素を上手に組合せていることがわかる。計画の策定手順については、各都市間の差や個性とらなるべきものは見られなかったが、それぞれの都市が目指す将来像には個性が表れている。

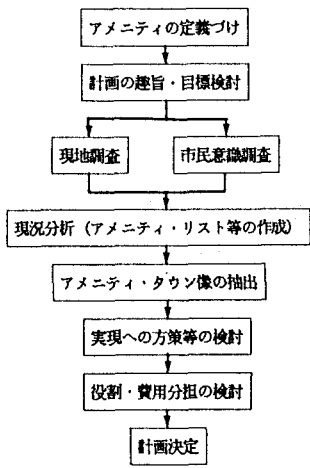


図-1 策定手順のまとめ

表-1 施策の類型

類 型	施 策 例
(1) 緑や水を中心とした施設の整備	自然遊歩道・緑道 水辺に親しめる園地・施設 自然生態園 などの整備
(2) 良好な自然環境の保全	河川等の保護・蘇生 自然植生に配慮した緑地の整備 自然改変行為の規制・制限 など
(3) 快適な都市生活空間の創出	広告規制、建築物の色彩規制 橋などの公共施設の修繕 生垣づくりの促進 など
(4) 生活・行動ルールの確保	近隣騒音規制、花いっぱい運動 街路樹の維持・管理への住民参加 ゴミの清掃活動 など
(5) 歴史的価値物の保存	歴史的建築物の保存 歴史的松並木の活性化 各種祭事や行事の振興 など

表-2 各都市の事業の共通項目別分類

分類	都市名	類型				
		自然の施設整備	自然の環境保全	快適な生活空間	生活・行動ルール	歴史的価値
A	姫路市			○	○	
	高山市			○	○	
	柳川市		○		○	
B	越谷市	○		○		
	諏訪市	○		○		
	大津市	○	○			
	出雲市	○	○	○		
C	八木町					
	呉 市	○		○		○
	盛岡市			○		○
	高崎市		○			○
	福岡市					○
	日田市		○			○

3. 川内市でのケーススタディー市民意識調査一

川内市の市民意識調査においては、町づくり懇談会委員と市民モニター200人の自由連想法による予備調査(1985.8月)に基づき多肢選択法による市民意向調査(抽出5080、回収2378、回収率46.8%)が行われた(1985.10月)。

(i) 単純集計(市民意向調査)

川内市の文化・自然・歴史を代表するカテゴリー(大綱引、川内川、新田神社)を70%以上の市民がイメージし、都市や産業を代表するカテゴリー(原子力発電所、中越パルプ)がこれに続いている(表一3)。

(ii) 自由連想イメージ(予備調査)

自由な連想のつながりをグラフで表現すると(図一2)、5つの主要な要素(川内川、大綱引、新田神社、原子力発電所、がらっぱ)が明らかになったこれは川内市を代表するものと考えられ、またそれに関連する4つのグループの諸々の要素へイメージがつながっていると思われる。

(iii) 制限連想のイメージ(市民意向調査)

川内市から思い浮かぶ言葉を10個まで選んでもらう調査を行い、数量化Ⅲ類により分析した(図一3)。これにより単純集計から読み取られた文化・自然・歴史を代表する事象とそれに続く都市や産業を代表する事象のイメージ構造が抽出されていると思われる。市民は、「産業・開発」のイメージと「歴史・行事」に関するイメージを想起している。これは川内市の産業の発展と同時に地域社会形成に関心を示しているものと思われる。

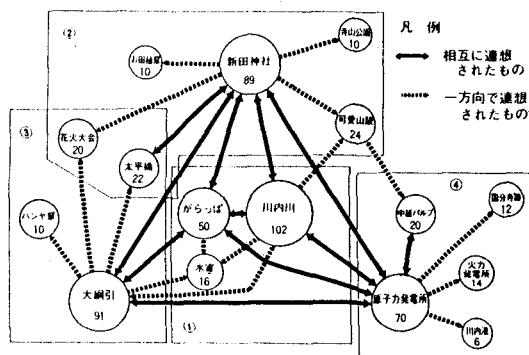
4. おわりに

本研究の調査結果はアメニティ・タウン計画の中にイメージの骨格となる①自然・文化、②歴史、③都市施設が取り入れられ、計画の裏付けとして有効な情報となったものと考えられる。

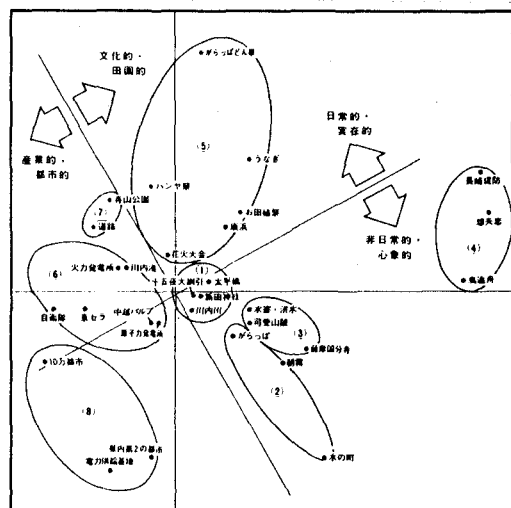
本論文の作成にあたり御協力下さった川内市役所の方々、ならびに地域開発研究所の伊納浩氏、神田稔弘氏、野倉淳氏に心から感謝いたします。また多方面で御助力下さった長畑保彦君、北沢俊明君に厚く御礼を申し上げます。

表一3 川内市のイメージ

(1) 十五夜大綱引	2,003	(84.1%)
(2) 川内川	1,792	(75.2%)
(3) 新田神社	1,715	(72.0%)
(4) 太平橋	1,501	(63.0%)
(5) 原子力発電所	1,403	(58.9%)
(6) 中越パルプ	1,185	(49.8%)
(7) 花火大会	1,139	(47.8%)
(8) 水害・洪水	986	(41.4%)
(9) 可愛山線	956	(40.2%)
(10) がらっぱ	905	(38.0%)
(11) 京セラ	722	(30.3%)
(12) お田健祭	697	(29.3%)
(13) ハンヤ祭	665	(27.9%)
(14) 自衛隊	537	(22.6%)
(15) 火力発電所	535	(22.5%)
(16) 寺山公園	529	(22.2%)
(17) 朝霧	516	(21.7%)
(18) 川内港	407	(17.1%)
(19) 県内第2の都市	337	(14.2%)
(20) 10万都市	315	(13.2%)
(21) 鶴岡国分寺	309	(13.0%)
(22) 電力供給基地	288	(12.1%)
(23) 唐浜	234	(9.8%)
(24) がらっぱとん祭	163	(6.8%)
(25) 水の町	123	(5.2%)
回答者数	2,381	(100%)



図一2 川内市の主なイメージのつながり



図一3 数量化Ⅲ類による川内市のイメージの分類